

1. 管理運営の基本方針

管理運営は、文学館の基本的活動を支える重要な骨格をなすものであり、文学館の基本理念と諸活動を円滑に推進するために最も適した体制を検討する必要があります。

また、本施設は、複合施設としての整備を検討しています。効率的な施設管理を行うため、併設する施設との連携を図ることを前提とし、計画の初期段階から連携を図りながら検討を進めていく必要があります。さらに、運営面においては、文学館として独立性を保持しますが、共同事業の開催など柔軟な運営が図れる体制づくりが必要です。

2. 管理運営形態

(1) 管理運営方式

文学館の活動を継続的に行い、長年にわたり資料や情報に関する蓄積を図ることのできる運営形態が求められます。また、多彩な事業を展開するため、他の文学館のノウハウを生かして企画展運営を図る手法など、文学館の機能を最大限に発揮できる仕組みを構築します。

(2) 組織体制と職員

文学館の運営組織としては、文学館全体の統括責任者である館長の下、庶務、施設管理、広報など文学館の上質で活発な運営を支える「管理部門」（事務系職員で構成）と、文学館としての専門的業務を行う「研究部門」（学芸員で構成）の2部門で構成することを基本とし、具体化に向け、今後、検討していきます。

また、文学館の活動を支援し指導・助言などを行う名誉館長や顧問として、文学者など著名人の就任の可能性について検討するほか、資料購入の適否を諮る資料評価委員会、企画展へのアドバイスを行う運営委員会などの機関を設置し、適切な事業運営が行える仕組みを構築する必要があります。

さらに、文学館の内外で、展示解説、資料整理、ガイドツアー、イベントなど様々な活動に区民をはじめとする人々に参画してもらえるボランティアスタッフなどの仕組みも必要です。

3. 開館形態

多くの人々が気軽に利用できるよう、利用者の立場に立った開館日時、利用料金を検討することが求められます。具体的には、今後の検討となりますが、開館形態によっては施設計画を変える必要が生じる場合もあり、施設計画と並行して検討を進める必要があります。

(1) 開館日時

季節や曜日などによる来館者数の変化を考慮し、より多くの人々が利用しやすい開館日時を検討しますが、具体的な検討に当たっては、併設する施設との調整が必要です。

(2) 利用料金

無料、有料、あるいは企画展やイベントのみ有料など、具体的な利用を想定し、今後、他の文学館や文化施設の傾向も踏まえつつ、検討を行います。